

イラク復興人道支援群第一次隊が去る 31 日、困難な任務を見事に完遂して全員無事に帰国した。

彼らを送り出した責任者として、且つ彼等に『君等を迎えてやる』と約束した所以もあって、第 5 旅団長にお願いして、帯広駐屯地で開催された『第一次イラク派遣隊員帰国歓迎行事』に参加させて貰った。本来であれば、所謂後任者が指揮統率している場合にはその部隊を訪れてはならないという不文律があるが、特段の計らいをお願いした次第である。快く招待して頂き感謝している。

自ら宿営地を準備し、活動の方法や要領を手探りで模索・調整しつつ、逐次に後続部隊や装備を受け入れ或いは調達しての正に第一次隊ならではの苦勞の連続であった。今後の活動の基盤は確立出来たし、そして、何よりも彼等はこの 3 ヶ月の間に現地の人々との信頼関係を構築し得た。聞けば子供達が行きかう車に乗っている隊員に手を振ってくれるという。最も彼等も彼等が無用に刺激しないように気を使っているのだが・・・。米国に自衛隊と同じ程度の細かい拝領が出来れば、事態はもっと早く改善されているのだろうが・・・。傲慢な彼等にそのようなことを期待するのは、無駄かも知れぬ。

さて、彼等の勇姿に接し、話を聞いて幾つかの所見を持った。

① 艱難、汝を珠に！

各部隊長がこれぞと思っ選考した隊員諸官であるから、素より使命感もあり所謂良い顔をしていたのは当然であるが、出国前に比して一段と良い顔になっていた。彼等は多分未だに気付いていないだろうが、一回りも二回りも大きくなった筈だ。(最も体重は、最も減った者が 10kg、平均すると数キロのようだが・・・肝臓の数値改善も大也)。“艱難辛苦、汝を珠(玉)にする”は真理である。

② 日本の良さの再認識！

荒廃し、混乱の極みにある国に生活・勤務し、そこから日本を見て、日本の素晴らしさを再確認したようだ。

③ 体験の共有化を！

5 旅団から参加した者は現地で活動中の隊員を含め手も全隊員の 2%にも満たない。今回派遣された隊員諸官の貴重な経験が全ての隊員諸官の財産になるべきであろう。勿論、政府や陸・海・空自衛隊レベルでも、そのような方向で処置されるべきだ。

④ ソフトランディングを！

彼等が、現地の過酷な勤務・生活環境下で相当に高いテンション状態を強いられていたことは否めない事実である。そういう状態から一気に全くテンションのない状況(平凡な日常)に、人間は巧く適応出来るものだろうか。リハビリ・適応訓練というような何らかの方策も検討せずばなるまい。幸いなことに特段の事案はなく、特別な対処療法は必要ないようだが・・・

⑤ 部隊単位で派遣すべき時代の到来！

従来国際貢献活動における要員選考においては、どちらかと言うと隊員の希望を重視していた（ようだ）。が、国際貢献活動も常態化し、且つ要請に即応せざるを得ないケースも十分に考えられるので、部隊単位での派遣を視野に入れて準備をすべきである。平生からの物心両面の即応態勢を維持することは武力集団の使命である筈だ。我々は組織として任務を遂行すべきであって、希望者を募って特定任務を遂行させるというのは尋常ではない。そろそろ当たり前の組織にならねばならない。ベストな隊員を選考出来るというメリットは認めるが、本来武力組織というのは組織で任務を果たすものなのである。全体としての能力は低下したとしても、部隊長を核心とした部隊単位で行動出来るようにしておかねば武力組織とは言えぬ。ハードルは高いかもしれないが・・

⑥ 恒久法の制定を！

今回の派遣も「イラク復興人道支援法」に基づく派遣であり、取りあえず二年間の時限立法である。今後のイラクの展開は読めないが、多国籍軍が編成されるような事態が起きた場合には自衛隊派遣を如何にするのだろうか。顧みれば、カンボジア以来その都度情勢に併せて慌てて特別法や時限立法を制定して自衛隊派遣を正当化してきたけれども、このような場当たりのな弥縫策を何時まで繰り返すのだろうか。

恒久法の制定が望まれる。この際には、PKO参加5原則の改定、部隊行動基準の国際標準化、国際貢献活動における任務達成に必要な武力行使の許容・認可等の抜本的な改正が為されるべきである。

(了)